

八峰コミスク通信

令和2年度
第14号
R3/1/27
CSディレクター
工藤

● コロナ禍を乗り切りましょう
年末から年始にかけて、コロナ禍により行事が中止・延期になりました。



・12月末の「チビッコ公民館」は延期、「おはなしの会かもめのお楽しみ会」は中止、1月上旬の「小6・中一交流事業」は中止など。子どもたちにとって残念でしたが、こういう時こそみんなで知恵を出して乗り切りましょう。

12月のあっちこっち見聞録

● 八峰中学生の地区奉仕活動

12月25日(金)午後、八峰中学生が「地域貢献」として、各地区で奉仕活動を行いました。

このうち、浜田地区では6名の中学生が、コミュニティセンター内の掃除を買って出ました。床掃除はもちろん、高い壁や窓の掃除等も手掛けて、自治会長から感謝されていました。



● 先生たちのICT研修会

1月11日(月)、12日(火)

に、町内の教職員やICT支援員を対象に、NTTグループ主催の『ICT活用研修会』が開催され、グループが提供している教育サービスについて、学習し、体験してみました。

先生たちもこうやって研修していますよー。



1月21日(木)『熟議』の報告です



熟議とは、年齢、性別、立場、考え方が違う人たちが集まって、課題解決のために意見を出し合い、話し合いを重ねていくことです。お互いに理解が生まれ、考え方を共有することができ、課題解決のアイデアにつながることもあります。今回の熟議には17名が参加し、熱い想いと笑い声が交差するにぎやかなグループワークになりました。

■ 八森小学校グループ (5名) テーマ『行事(運動会、サツマイモづくり、学習発表会等について)』

「コロナ禍で、中止や変則的に行った行事を、今後どのように考えていったらよいか」との課題に対し、参加者からは、「できれば行事の継続を」「運動会では、一般住民も参加できるような踊りを」「サツマイモづくりは密を避けて学年単位で」「元気みこしに代わって通り踊り等はどうか」など、多くのアイデアが寄せられました。



■ 峰浜小学校グループ (6名) テーマ『峰浜地区の先輩から、後輩に語り継ぎたいことは何か』

「かつての塙川小、水沢小、岩子小等のそれぞれの地域性を大切にして、峰浜小学校を作り上げていきたいので、”伝えたいこと”を語ってほしい」との課題に対し、参加者からは、旧水沢小のサクラの木、スキー大会、鍋っこ遠足、目名瀧山登山、高峰山登山、旧岩子小のイチゴ収穫、米づくり、梨づくり、合唱、俳句、石炭ストーブ、旧3校合同キャンプ、先生の厳しい(愛ある)しつけ等、多くの思い出が寄せられました。

また、「旧3小学校は、地域文化や産業と結びついた特色ある学校だったので、峰浜小学校でも良いところを取捨選択して学校づくりを進めてほしい」とのエールも寄せられました。



■ 八峰中学校グループ(6名) テーマ『生徒たちの商品開発、町内特産品販売の今後について』 & 『ふるさとめぐり』

「今まで、3年生のオリジナル商品開発と販売、2年生の町の特産品PR活動を外向けに行ってきたが、コロナ禍のため町文化祭で開催した。今後の活動の在り方についてのアイデアを求めたい。また、生徒たちが本当に町内のことを知っているのかという疑問があって、生涯学習奨励員の会からの提案の”ふるさとめぐり”についてもアイデアを求めたい」との課題説明がありました。

前者については、「コロナ禍なので、まず足元から」「商工会としても応援している」「販売活動だけでなく、もう一步ステップアップした活動を」など、後者には「ふるさとを知らないと、特産品説明も地域紹介もできない」「今はこうでも、昔はどうだったのだろう、これからどうなっていくのだろうと考えてもらう良い機会になる」などの意見が寄せられました。

